

(仮称)

第三次名張市子ども教育ビジョン(素案)

2026(令和8)年度▷2035(令和17)年度

めざす「ばりっ子」のすがた

夢
を育む子

未来
を創る子

心
の豊かな子



第三次名張市子ども教育ビジョン

子ども一人ひとりが自他のかけがえのない価値を認識しながら、多様な人々と協働し、様々な分野に積極的に挑戦し、自分の可能性を伸ばすことができるようにするためには、今後も子どもの自己肯定感（※）を高めることが重要と考えます。子ども一人ひとりの幸せ（＝ウェルビーイング）につながる自己肯定感を育むためには、ありのままの自分が受け入れられているという実感を持つことが必要です。また、自らの目標に向けて努力して達成感を得ることや、人の役に立ったり、互いに認め合ったりすることなど、様々な経験を重ねることが大切です。

めざす「ばりっ子」のすがたを実現するため、自己肯定感をはじめ、子どもに育みたい力を学校はもとより、家庭や地域、福祉等の関係機関がそれぞれの役割と責任と強みを自覚し、社会総がかりで子どもの教育に向き合い、子どもの健やかな成長に関わることが重要です。

子どもに育みたい力

夢を実現する力



一人ひとりが、多様な個性・能力を伸ばし、夢や目標の実現に向けて、主体的に人生を切り拓く力

主体性

自己実現力

確かな学力

探究する力

健やかな心身

社会を拓く力



一人ひとりが、学校や地域社会の中で自分の役割を自覚し、人とつながり、高め合いながら、課題解決に向かう力

対話力

協働する力

創造する力

柔軟性

社会貢献意識

豊かな人間性



一人ひとりが、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な他者を理解・尊重し、共生していく力や態度

自己肯定感

豊かな情操

人間関係力

生命・人権尊重の心

道徳心

3つの基本方針

一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育を実現する観点から、「子どもに育みたい力」の育成に向けて本計画を展開する上で、大切にしたい視点を基本方針として示します。

小中一貫教育を軸とした
育ちのバトン



CSを基盤とした
育ちのスクラム



教育センターを拠点とした
育ちのシステム



※ 自己肯定感には、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感や他者からの評価等を通じて育まれるものと、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を受け止めることで育まれるものと2つの側面があると捉えます。

本市がめざす教育の推進のために、4つの基本施策を柱とした17の施策を策定しました。
この計画に基づき、めざす「ばりっ子」のすがたの実現に向け、施策・取組を推進していきます。



4つの基本施策と17の施策



I 自ら未来を切り拓き、創造する力の育成

子どもにこれからの時代を生きていくための基礎・基本となる力を育みます。変化が激しく、予測困難なこれからの社会において、変化をしなやかに受け止め、失敗を恐れず前向きに挑戦する心や、学びに向かう姿勢と社会の一員としての自覚と責任を持ち、他者との協働を大切にしながら豊かな未来を創っていく力を育みます。

- (1) 系統性・連続性を重視した教育の推進
- (3) 主体的に社会の創り手となる態度の育成

- (2) 確かな学力の育成
- (4) グローバルに活躍する人材の育成

II 豊かな心と健やかな体の育成

学校教育活動全体を通じて、子どもの自己肯定感の涵養や、豊かな情操や道徳心、人権尊重、平和希求の態度や行動力などの育成をめざします。読書活動や文化芸術の体験活動を通じ、子どもの感性及び主体的に学び続ける力を育みます。また、生涯にわたり、運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成するとともに、生活習慣の確立や学校保健の推進等により、心身の健康と体力の向上を図ります。

- (1) 人権・同和教育の推進
- (2) 道徳教育の推進
- (3) 読書活動・文化芸術活動の充実と推進
- (4) 体力向上に向けた取組の推進
- (5) 健康教育・食育の推進

III 誰もが安心して学べる教育の推進

複雑化・多様化する教育的ニーズに対応し、特別な支援を必要とする子どもをはじめ、不登校の子どもや外国につながる子どもなど、一人ひとりの状況に応じた支援が適切に実施され、誰もが安心して学べる環境が整い、将来の社会的自立に向けた力を育みます。

また、通学時や非常時の安全・安心を確保しながら学びを継続していくことができる体制づくりや、学校・家庭・地域が目的や課題を共有し、協働して教育活動が進められる体制づくりを進めます。

- (1) 特別支援教育の推進
- (2) 多様なニーズに応じた教育の推進
- (3) 子どもの安全・安心の確保
- (4) 学校・家庭・地域のつながりを生かした教育の推進

IV 学びを支える教育環境づくり

教職員の社会の変化に対応した専門性と、主体的に学ぶ子どもの力を引き出す指導力が向上するとともに、子どもに寄り添い、向き合う時間や教職員自身の成長の機会の確保ができるよう、働きやすい環境づくりを進め、教職員のウェルビーイングの向上につなげます。

地域の中で、子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、地域における様々な主体との情報交換・共有を通じ、相互のつながりを形成する子どもを中心にしたネットワークの実現をめざします。

また、学校施設と学習環境の整備・快適化を図り、子どもの学びと育ちを支えます。

- (1) 教職員が働きやすい環境づくり
- (2) 教職員の資質・能力向上と学校の組織力向上
- (3) 地域の教育力向上と家庭教育支援の充実
- (4) 学校施設・環境の整備と充実

「第三次名張市子ども教育ビジョン」策定に当たって

名張市教育委員会は、平成28年3月に「第二次名張市子ども教育ビジョン」を策定し、子どものために、全ての教育関係者と一体となって様々な取組を展開してきました。この間、発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響及び国際情勢の不安定化等、子どもの育つ環境には大きな変化が生じています。このような将来への予測が困難な時代において、社会の課題や変化に対応できる人材の育成と、未来に向けて、自らが社会を切り拓き、創り出していく人材の育成という双方の視点が必要です。

このような認識の下、本ビジョンの策定に当たっては、教育関係者・地域・保護者の意見だけでなく、市内の小学6年生、中学3年生を対象としたアンケートや懇談会等を通じて様々な声を聞き取り施策に反映できるよう検討を重ねました。



・多くの人と関わっていく中で、コミュニケーション能力が大切だと思う。これからも高めたい。

・相手の気持ちを考えて話すことが大切。協調性も身に付けたい。

・自分の決めた目標に向かって頑張ることが大切だと思うし、そういう自分になりたい。

・タブレットはクラスみんなの意見がすぐにわかるから自分の意見と比べやすい。

・算数の時間に少人数で教えてくれるのがわかりやすい。
・わからない時に質問しやすい。

・自分の興味がある内容を深く掘り下げて学ぶ時間があるといい。
・自分で調べたりまとめたりして学びたい。

・同じ中学校区で、他の小学校と交流する機会があり、嬉しかった。中学校に行くまでにみんなで集まったり、話したりできると安心するし、楽し気になる。

・実際に体験して学んだことは心に残るから忘れない。
・地域のいろいろな人の話を聞かせてもらって学ぶのが面白い。

・友だちの意見を聞くことで自分の考えが確かになったり、新しくなったりする。



本計画の着実な推進に向けて、学校・家庭・地域などの多様な主体との連携・協働が必要となります。ビジョンに掲げた基本的な考え方や施策などについて、広く市民の理解と協力をいただくため、リーフレットや広報紙、ホームページなど、多様な広報媒体を活用しながら、市民への周知、啓発を図ります。



また、目標を実現するために必要となる「主な取組内容」と目標の進捗状況を把握する「取組の評価内容」と、その指標となる「基準値」及び「目標値」を示しました。進行管理に当たっては、毎年度、取組状況の現状を把握し、施策の推進状況や、指標の達成状況を明らかにした上で、幅広い観点から客観的かつ公正な点検・評価を実施し、その結果を次年度以降の新たな取組に反映させるPDCAサイクルの考え方に基づく進行管理を行います。結果については、市議会に報告するとともに、市ホームページで公表します。

